

シンポジウム 第1日 9月9日(木) 午前

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
「画像情報から植物を定量的に捉える」	「野外調査攻略法」	「植物と薬をつなぐ—薬用植物の多様な研究と新展開—」	「細胞質遺伝の分子機構～101年目の挑戦～」	「多様な形を作り出す植物の発生機構—その共通性と独自性」
<p>1aA01(9:00) 孔辺細胞オルガネラを標的とした顕微鏡画像データベースの構築と応用 ○松垣匠¹, 朽名夏磨^{1,2} 近藤 矩朗³, 馳澤 盛一郎^{1,2} ¹東京大・院・新領域, ²JST-BIRD, ³中央大</p> <p>1aA02(9:25) 植物細胞における小胞体流動～定量解析と生理学的意義～ ○上田 晴子¹, 朽名 夏磨^{2,3}, 横田 悦雄⁴, 嶋田 知生¹, 田村 謙太郎¹, 馳澤 盛一郎^{2,3}, 新免 輝男⁴, 西村 いくこ¹ ¹京大・院・理, ²東大・院・新領域, ³JST・BIRD, ⁴兵庫県立大・院・生命理学</p> <p>1aA03(9:50) TIRF顕微鏡で観る植物細胞のエンドサイトーシス ○藤本 優¹, 有村 慎一², 上田 貴志¹, 高梨 秀樹², 林 嘉禾², 中野 明彦^{1,3}, 堤 伸浩² ¹東京大・院・理, ²東京大・院・農学生命, ³理研・基幹研</p> <p>1aA04(10:15) ポストゲノム研究における定量的な表現型解析手段としてのハイパースペクトルイメージングの可能性 ○松田 修, 射場 厚 九州大・理・生物科学</p>	<p>はじめに(9:00)</p> <p>1aB01(9:05) ヒマラヤ、中国での植物採集 藤川 和美 牧野植物園</p> <p>1aB02(9:35) インドネシアでの民族植物学調査 小泉 都 地球研</p> <p>1aB03(10:05) 国内外での調査採集方法 角川(谷田辺)洋子 東京大・院・理・植物園</p> <p>1aB04(10:35) 単独での野外調査のリスクと対策 宮本 旬子 鹿児島大・院・理工</p>	<p>はじめに(9:00)</p> <p>1aC01(9:05) 公定書「日本薬局方」の中の薬用植物 ○酒井 英二¹, 寺林 進² ¹岐阜薬科大・薬草園, ²横浜薬科大・漢方薬学科</p> <p>1aC02(9:30) 「フィールドワーク」をベースにした薬用植物探索 南 基泰 中部大・応用生物・環境生物科学</p> <p>1aC03(9:55) 違法薬物「大麻」の植物としての多様性 高上馬 希重 北海道医療大・薬</p> <p>1aC04(10:20) 「ヨモギ属植物」のセスキテルペン化学系統分類 鈴木 宗典 横浜市大・木原生研</p>	<p>はじめに(9:00)</p> <p>1aD01(9:05) 真正粘菌の原始的な性とミトコンドリアの遺伝 ○森山 陽介¹, 高野 博嘉², 河野 重行¹ ¹東京大・院・新領域・先端生命, ²熊本大・院・自然科学</p> <p>1aD02(9:30) 葉緑体母性遺伝の分子機構と性 西村 芳樹^{1,2} ¹京大・院・理・植物, ²JST さきがけ</p> <p>1aD03(9:55) クラミドモナスにおけるmtDNAの父性遺伝 中村 宗一 琉球大・理・海洋自然</p> <p>1aD04(10:20) 被子植物の細胞質遺伝～色素体とミトコンドリアの異なる制御機構～ 永田 典子 日本女子大・理</p>	<p>はじめに(9:00)</p> <p>1aE01(9:05) シロイヌナズナ受精卵における発生軸の確立 ○植田 美那子¹, Thomas Laux², 東山 哲也¹ ¹名大・院・理・生命理学, ²Inst., Biol. III, Freiburg Univ.</p> <p>1aE02(9:30) イネの胚形成過程における器官分化の分子機構 佐藤 豊 名大・院・生命農学</p> <p>1aE03(9:55) シロイヌナズナにおける花メリステムの形成機構 相田 光宏 奈良先端大・バイオ</p> <p>1aE04(10:20) イネの花と花序の発生メカニズム—器官決定と極性制御— ○平野 博之, 鳥羽 大陽, 吉田 明希子 東大・院理・生物科学</p>

シンポジウム 第1日 9月9日(木) 午前

F 会場	G 会場	H 会場	I 会場	J 会場
「ケミカルバイオロジーが拓く植物科学の未来～新奇な生理活性化合物で生命活動を探る～」	「ストレス耐性とイオンチャネル」	「光合成・植物からグリーンイノベーションへの展開」	「東アジア陸上生態系の炭素循環の生態学的プロセス」	「植物群落の生産構造2010」
はじめに (9:00) 1aF01 (9:00) 植物就眠運動のケミカルバイオロジー：天然物有機化学からの展開 ○上田 実, 中村 葉子 東北大・院・理・化学 1aF02 (9:25) ケミカルバイオロジーによる植物免疫研究 能年 義輝 岡山大・異分野コア 1aF03 (9:50) ブラシノステロイド研究の新しい展開を切り拓くケミカルバイオロジー研究 ○中野 雄司 ^{1,6} , 山上 あゆみ ¹ , 嶋田 勢津子 ¹ , 吉澤 江里子 ^{1,4} , 松井 南 ³ , 作田 正明 ⁴ , Joanne Chory ⁵ , 浅見 忠男 ² ¹ 理研・基幹研・植物化学生物学研究ユニット, ² 東大・院・生命農学・応用生命化学, ³ 理研・PSC, ⁴ お茶大・院・創成科学・ライフサイエンス, ⁵ Salk Inst., ⁶ JST-さきかけ 1aF04 (10:15) 脂肪合成を阻害する小分子化合物 紙透 伸治 ¹ JST-ERATO, ² 理研	はじめに (9:00) 1aG01 (9:05) 環境ストレス応答に関与するCa²⁺透過性機械受容チャネル候補MCA1およびMCA2 中野 正貴 ^{1,3} , 飯田 和子 ² , 原茂 恵美子 ¹ , 今村 朋美 ¹ , 森 研堂 ¹ , 丹生 谷博 ³ , ○飯田 秀利 ¹ ¹ 東京学芸大・教育・生命, ² 都臨床研・細胞膜, ³ 東京農工大・遺伝子 1aG02 (9:33) コムギのアルミニウム耐性をコードするALMT1の活性化機構 ○古市 卓也, 佐々木 孝行, 土屋 善幸, 山本 洋子 岡山大・資源植物研 1aG03 (10:01) アブシジン酸受容体PYR/PYL/RCARファミリーを介したアブシジン酸情報伝達機構 ○Noriyuki Nishimura ^{1,2} , Kenichi Hitomi ^{3,4} , Andrew S. Arvai ³ , Robert P. Rambo ⁴ , Angela Wang ² , Stephen Lee ² , Daniel F. Caddell ¹ , Ali Sarkeshik ³ , Kazumasa Nito ⁵ , Sang-Youl Park ⁶ , Chiharu Hitomi ³ , Paulo C. Carvalho ³ , Joanne Chory ⁵ , John R. III Yates ³ , Sean R. Cutler ⁶ , Elizabeth D. Getzoff ³ , Julian I. Schroeder ² ¹ 生物研・放育場, ² UCSD, ³ TSRI, ⁴ LBNL, ⁵ SALK, ⁶ UCR 1aG04 (10:29) Abscisic acid signaling and methyl jasmonate signaling in guard cells ○Yoshiyuki Murata ¹ , Izumi C. Mori ² ¹ Div. Biosci., Okayama Univ., ² IPSR, Okayama Univ.	はじめに (9:00) 1aH01 (9:10) 光合成微生物システムのイノベーションへの展開 池内 昌彦 東京大・院・総合文化・生命 1aH02 (9:40) 植物の生長や環境応答システムの解明とグリーンイノベーションへの展開 篠崎 一雄 理研・PSC・バイオマス工学 1aH03 (10:10) 植物光合成システムのイノベーションへの展開 徳富 (宮尾) 光恵 農業生物資源研・光ユニット	Introduction of A3 Foresight Program (9:00) 1aI01 (9:10) Carbon dynamics in an alpine meadow on the Qinghai-Tibetan Plateau Yanhong Tang 国環研・生物 1aI02 (9:30) Interannual carbon budget in a cool-temperate deciduous broadleaf forest and its ecophysiological considerations ○Hiroyuki Muraoka ¹ , Hibiki Noda ² , Toshiyuki Ohtsuka ¹ , Nobuko Saigusa ³ , Hiroshi Koizumi ⁴ ¹ Gifu Univ., Japan, ² Univ. Tsukuba, Japan, ³ NIES, Japan, ⁴ Waseda Univ. Japan 1aI03 (9:50) Multi-scale monitoring of vegetation phenology in Japan Takeshi Motohka Univ. of Tsukuba, Japan 1aI04 (10:10) Change in spatial distribution of major tree species and carbon stocks by climate change in Korea Sungcho Choi ¹ , Woo-Kyun Lee ¹ , Yowhan Son ¹ , Jong-Hwan Lim ² ¹ Department of Environmental Science and Ecological Engineering, Korea University, Seoul, Korea, ² Korea Forest Research Institute, Seoul, Korea 1aI05 (10:30) Changes in Forest Soil Carbon Storage to Climate Change in Korea Ah Reum Lee ³ , Koong Yi ² , Yowhan Son ¹ , Woo-Kyun Lee ¹ ¹ Department of Climate Change Environment, Korea University, ² Department of Environmental Science and Ecological Engineering, Korea University	1aJ01 (9:00) 植物群落の生産構造研究のこれまでとこれから 彦坂 幸毅 東北大・院・生命科学 1aJ02 (9:15) 最適葉群構築にかかわるシステミック制御 寺島 一郎 東大・院・理・生物/植物 1aJ03 (9:40) 葉群内の光環境と光合成反応の相似形モデル 小山 耕平 石川県立大・生物資源環境・植物生態 1aJ04 (10:05) 変動環境下の群落光合成に関するモデル解析 伊藤 昭彦 ^{1,2} ¹ 国環研・CGER, ² JAMSTEC・地球環境 1aJ05 (10:30) 植物の分枝構造と窒素分配パターンの関連 長田 典之 京都市大・フィールド研

シンポジウム 第1日 9月9日(木) 午前

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
<p>1aA05(10:40) 画像解析を用いた高CO₂吸収イネ作出の試み ○杉田(小西)左江子¹, 永野 惇², 井澤 毅² ¹香川大・院・農, ²生物研</p> <p>1aA06(11:05) 樹皮写真を用いた同定および定量解析の試み ○永野 惇¹, 奥山 雄大² ¹生物研, ²科博・植物</p>	<p>1aB05(11:05) 野外調査の今と昔 今市 涼子 日女大・理・物生</p>	<p>1aC05(10:45) 植物界に広く分布する「リボソーム不活性化タンパク質」 近藤 俊哉 鈴鹿医療科学大・薬</p> <p>1aC06(11:10) 漢方薬原料「甘草」のトリテルペノイド生合成酵素遺伝子解析 關 光 横浜市大・木原生研</p>	<p>1aD05(11:00) マウスにおける mtDNA 遺伝様式 ○設楽 浩志, 米川 博通 都臨床研</p>	<p>1aE05(10:45) 単面葉の発生進化の遺伝子基盤：裏しかない葉を平たくするしくみ ○山口 貴大¹, 塚谷 裕一^{1,2} ¹基生研, ²東大・院・理</p> <p>1aE06(11:10) 苔類ゼニゴケの環境応答と発生制御 河内 孝之 京大・院・生命科学</p>
<p>総合討論 (11:30)</p>	<p>総合討論 (11:35)</p>	<p>総合討論 (11:35)</p>	<p>1aD06(11:30) ゲノム科学時代での細胞質遺伝機構の研究 黒岩 常祥 立教大・理・極限生命</p>	<p>1aE07(11:35) 分化細胞から多能性幹細胞へのリプログラミング機構：一般性を探る 長谷部 光泰 基生研・生物進化, JST, 総研大・生命科学</p>

シンポジウム 第1日 9月9日(木) 午前

F 会場	G 会場	H 会場	I 会場	J 会場
<p>1aF05 (10:40) オーキシンのケミカルバイオロジー：オーキシンプローブの応用—コケからシロイヌナズナまで— 林 謙一郎 岡山理科大・理・生物化学</p> <p>1aF06 (11:05) ケミカルバイオロジーと比較ゲノム学を用いた植物の幹細胞化過程の解析 久保 稔 JST・ERATO 長谷部分化全能性進化プロジェクト / 基礎生物学研究所</p> <p>1aF07 (11:30) 困った副作用？からの展開と化合物ライブラリースクリーニングへの提言 浅見 忠男 東大院・農生科</p> <p>まとめと全体の質問など</p>	<p>1aG05 (10:57) The role of plant Cyclic Nucleotide Gated Ion Channels (CNGCs) in abiotic and biotic stress responses Keiko Yoshioka University of Toronto, Dept. of Cell and Systems Biology</p> <p>1aG06 (11:25) 感染認識の初期反応とカルシウム—活性酸素シグナル ○朽津 和幸, 来須 孝光, 濱田 晴康, 賀屋 秀隆 東京理科大・院・理工・応用生物科学</p> <p>総合討論 (11:53) まとめと展望</p>	<p>1aH04 (10:40) シアノバクテリアのエネルギ変換システムの形質転換とその将来性を考える微生物機能のグリーン光合成への展開 ○久堀 徹, 紺野 宏記, 小林 真理, 砂村 栄一郎, 畠山 和佳子, 福島 裕理子, 野亦 次郎 東工大・資源研</p> <p>1aH05 (11:10) 光合成エネルギーフローのイノベーションへの展開 田中 歩 北大・低温研</p>	<p>1aI06 (10:50) Estimates of greenhouse gas (N₂O and CO₂) mitigation potential in Chinese croplands ○Yao Huang^{1,2}, Yonghua Tang² ¹LAPC, Institute of Atmospheric Physics, Chinese Academy of Sciences, ²Nanjing Agricultural University</p> <p>1aI07 (11:10) The carbon balance of terrestrial ecosystems in China ○Shilong Piao¹, Jingyun Fang¹, Philippe Ciais², Philippe Peylin³, Yao Huang⁴, Stephen Sitch⁵, Tao Wang¹ ¹Department of Ecology, Peking University, ²LSCE, UMR CEA-CNRS, ³Laboratoire de Biogéochimie Isotopique, ⁴Institute of Atmospheric Physics, Chinese Academy of Sciences, ⁵Met Office Hadley Centre (JCHMR)</p>	<p>1aJ06 (10:55) Is vegetation structure and productivity the result of a game? ○Niels P. R. Anten, Peter J. Vermeulen, Heinjo During Utrecht University</p>

シンポジウム 第2日 9月10日(金) 午前

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
「植物生理機能のイメージングによる解析」	「見逃されている種多様性を知る・守る・伝える」	「顕微鏡技術は植物科学の発展にどのように貢献できるか？」	「細胞骨格系と RNA の輸送」	「転写後遺伝子発現制御を通して植物発生を理解する」
<p>2aA01 (9:00) 新奇遠心顕微鏡を用いたデンブ平衡石仮説の検証 ○豊田 正嗣¹, 田坂 昌生¹, 森田 (寺尾) 美代^{1,2}, ¹奈良先端大・バイオ, ²さきがけ・JST</p> <p>2aA02 (9:30) 血管内皮細胞における力学受容機構のイメージングによる解析 ○早川 公英^{1,4}, 辰巳 仁史², 曾我部 正博^{1,3} ¹JST・SORST・細胞力学プロジェクト,²名古屋大・医・イメージング生理,³名古屋大・医・細胞生物物理,⁴名古屋大学革新ナノバイオデバイス研究センター</p> <p>2aA03 (10:00) 細胞内シグナル伝達機構解明のための生物発光基質の創出 ○久世 雅樹¹, 田中 瑛子², 西川 俊夫² ¹名大・物質国際セ・化測機,²名大院・生命農学・生物有機</p> <p>2aA04 (10:30) 植物免疫応答における葉緑体 Ca²⁺ シグナルと CAS の役割 ○野村 裕也¹, 椎名 隆² ¹名古屋大・院・生命農学, ²京都府大・院・生命環境</p>	<p>趣旨説明 (9:00)</p> <p>2aB01 (9:05) タイ・ラオスのカワゴケソウ科の多様性～形態的に明らかな新種が次々と発見される例～ ○厚井 聡¹, 加藤 雅啓² ¹奈良先端大・バイオ, ²科博・植物</p> <p>2aB02 (9:25) 遺伝子解析から見いだされたコウホネ属の絶滅危惧種～見逃されてきた絶滅危惧種とその保全～ ○志賀 隆¹, 横川 昌史², 兼子 伸吾², 井鷲 裕司² ¹大阪自然史博,²京大・院・農</p> <p>2aB03 (9:45) 150 万種? と推定される菌類の種の実体～カビにおける隠蔽種・同胞種～ 出川 洋介 筑波大・院・生命環境・菅平</p> <p>2aB04 (10:05) 生殖から見るミカヅキモ複合体の実体～単細胞藻類の生物学的種～ 土金 勇樹 日本女子大・理</p> <p>2aB05 (10:25) 見逃されている多様性をどう社会に伝えるか? ～分類学のもう一つの役割～ 海老原 淳 科博・植物</p>	<p>はじめに (9:00)</p> <p>2aC01 (9:05) ライブイメージングと電子顕微鏡の両方を用いて明らかにした液胞膜の機能 齊藤 知恵子 理研・基幹研</p> <p>2aC02 (9:35) うどんこ病菌感染確立における宿主アクチンの動的機能解析 ○稲田 のりこ¹, 桧垣 匠², 馳澤 盛一郎², Elizabeth Savory³, Miaoying Tian³, Brad Day³ ¹奈良先端大・バイオ・植物グローバル,²東京大・院・新領域,³ミシガン州立大・植物病理</p> <p>2aC03 (10:05) 電子線トモグラフィーによる微小管とアクチンの相互作用の解析 ○竹内 美由紀, 峰雪 芳宣 兵庫県立大・院・生命理学</p> <p>2aC04 (10:35) X線 CT による種子と実生の形態解析 ○唐原 一郎¹, 山内 大輔² ¹富山大・院・理工・生物, ²兵庫県大・院・生命理学</p>	<p>はじめに (9:00)</p> <p>2aE01 (9:05) シロイヌナズナ側根形成における SRD2 依存的な snRNA 蓄積の重要性 ○大谷 美沙都¹, 出村 拓^{1,2}, 杉山 宗隆³ ¹理研・BMEP,²奈良先端大・バイオ,³東京大・院・理・植物園</p> <p>2aE02 (9:30) 小分子 RNA によるイネのメリステム構築 ○伊藤 純一¹, 佐藤 豊², 長戸 康郎¹ ¹東京大・院・農,²名古屋大・院・農</p> <p>2aE03 (9:55) trans-siRNA 前駆体 TAS のプロセッシング 吉川 学^{1,2} ¹農業生物資源研究所, ²JST・さきがけ</p> <p>2aD01 (10:00) 植物の細胞骨格は RNA 輸送に働くか? 村田 隆^{1,2} ¹基生研・生物進化,²総研大・生命科学・基礎生物</p> <p>2aD02 (10:20) 神経細胞における mRNA 輸送と局所的翻訳の分子機構 椎名 伸之 岡崎統合バイオ (基生研)・神経細胞生物</p>	<p>はじめに (9:00)</p> <p>2aE01 (9:05) シロイヌナズナ側根形成における SRD2 依存的な snRNA 蓄積の重要性 ○大谷 美沙都¹, 出村 拓^{1,2}, 杉山 宗隆³ ¹理研・BMEP,²奈良先端大・バイオ,³東京大・院・理・植物園</p> <p>2aE02 (9:30) 小分子 RNA によるイネのメリステム構築 ○伊藤 純一¹, 佐藤 豊², 長戸 康郎¹ ¹東京大・院・農,²名古屋大・院・農</p> <p>2aE03 (9:55) trans-siRNA 前駆体 TAS のプロセッシング 吉川 学^{1,2} ¹農業生物資源研究所, ²JST・さきがけ</p> <p>2aE04 (10:20) uORF がコードするペプチドにより翻訳が制御されるシロイヌナズナ遺伝子の探索と解析 蝦名 績¹, 渡部 峻¹, 竹本 まり子², 遠洞 弥生³, 小山 博彰³, 高橋 広夫⁴, 高野 順平², 内藤 哲^{1,2}, 〇尾之内 均² ¹北大・院・先端生命, ²北大・院・農,³北大・農, ⁴中部大学・応用生物</p>

シンポジウム 第2日 9月10日(金) 午前

F 会場	G 会場	H 会場	I 会場	J 会場
「細胞周期研究から見えてきた DNA 複製・修復の統御機構」	「古くて新しいモデル植物ゼニゴケ ～陸上植物の多様性・普遍的な分子基盤を探る～」	「分子でみる光合成生物の多様性・生態・環境」	「光合成における CO ₂ 獲得への長き道のり～気孔から Rubisco まで～」	「宿主植物から見た生物間相互作用 ～異種生物との共存の場としての植物研究」
はじめに (9:00) 2aF01 (9:05) 植物の DNA2 重鎖切断修復の細胞周期による制御 遠藤 真咲 ¹ , 刑部 敬史 ¹ , 梅田 正明 ² , 土岐 精一 ^{1,3} ¹ 生物研・植物科学, ² 奈良先端大・バイオ, ³ 横浜市大・木原生研	はじめに (9:00) 2aG01 (9:05) ゼニゴケのモデル植物としての特長 河内 孝之 京大・院・生命科学	2aH01 (9:00) シンポジウムの趣旨について ○宮下 英明 ¹ , 瀬戸口 浩彰 ¹ , 上井 進也 ² ¹ 京大・院・人間・環境, ² 新潟大・理 2aH02 (9:10) 分子生物学的手法で見えてきたシアノバクテリアの分布と多様性 大久保 智司 京大・院・人間・環境	はじめに (9:00) 2aI01 (9:10) 孔辺細胞における CO ₂ シグナリング ○橋本 美海, 柘宜 淳太郎, 射場 厚 九州大・院・理 2aI02 (9:40) 葉肉組織由来のペプチドホルモン stomagen は気孔密度を正に制御する ○菅野 茂夫 ¹ , 嶋田 知生 ¹ , 森 正之 ² , 西村 いくこ ¹ ¹ 京大・院・理・植物, ² 石川県立大・生物資源研	はじめに (9:00) 2aJ01 (9:05) 共生を司るプロテインキナーゼ CcCaMK ~ Ca ²⁺ ・CaM 結合の差異が根粒菌・菌根菌感染を規定する～ ○下田 宜司 ^{1,2} , 今泉 (安楽) 温子 ^{1,2} ¹ 農業生物資源研究所, ² PROBRAIN 2aJ02 (9:30) 宿主植物による根粒形成のフィードバック抑制～根粒形成/硝酸誘導性 CLE 遺伝子によるシステミックな抑制～ 岡本 晁 基礎生物学研究所 2aJ03 (9:55) 病原菌分泌ペプチドによる植物の形態制御～ファイトプラズマの病原因子「TENGU」の発見～ ○大島 研郎, 星 朱香, 菅原 杏子, 煉谷 裕太郎, 姫野 未紗子, 石井 佳子, 柿澤 茂行, 難波 成任 東大・院・農 2aJ04 (10:20) 新奇 <i>in planta</i> イメージング ～菌根共生における植物の膜ダイナミクス～ 小八重 善裕 名古屋大・院・生命農・作物科学
2aF02 (9:30) シロイヌナズナの細胞周期チェックポイントに関与する AtATRIP の解析 坂本 綾子 原子力機構・遺伝子資源	2aG02 (9:30) モデル実験生物ゼニゴケのゲノム情報およびリソースの現状 大和 勝幸 近畿大・生物理工・生物工	2aH03 (9:35) アオコ形成ラン藻ミクロシスティスの生物地理 田辺 雄彦 筑波大・院・生命環境		
2aF03 (9:55) 植物の減数分裂への移行を制御する RNA 結合蛋白質の解析 野々村 賢一 遺伝研・実験圃場	2aG03 (9:55) 細胞分裂から見たゼニゴケの形態形成 嶋村 正樹 広島大・院・理・生物科学	2aH04 (10:00) 遺伝子マーカーでみる海藻の集団構造と動態 上井 進也 新潟大・理・自然環境	2aI03 (10:10) 半導体レーザーを用いた葉内コンダクタンスと気孔コンダクタンスの高時間分解での同時測定 ○児玉 直美 ¹ , John E. Hunt ² , Margaret M. Barbour ³ ¹ 京都工繊大, ² ランドケア リサーチ, ³ シドニー大	
2aF04 (10:20) 植物の DNA チェックポイント機構で動く新規転写因子 SOG1 の役割 ○愿山 郁 ¹ , 真木 寿治 ¹ , Anne Britt ² , 梅田 正明 ¹ ¹ 奈良先端大・バイオ, ² UC Davis Plant Biol.	2aG04 (10:20) ゼニゴケで植物膜交通研究の新地平を拓けるか 上田 貴志 東大・院理・生物科学	2aH05 (10:25) 海産有害・有毒プランクトンの分布と集団遺伝構造 長井 敏 水研セ・瀬水研	2aI04 (10:30) 葉内 CO ₂ コンダクタンスの CO ₂ 応答 ○田副 雄士 ¹ , Susanne von Caemmerer ² , John R. Evans ² ¹ 京大・院・生命, ² Australian Nat. Univ.	

シンポジウム 第2日 9月10日(金) 午前

A 会場	B 会場	C 会場	D 会場	E 会場
<p>2aA05(11:00) ポジットロンイメージング技術(PETIS)による植物体内の栄養/有害物質の動態解析 藤巻 秀 原子力機構・量子ビーム</p> <p>2aA06(11:30) 放射性同位元素イメージング~従来手法の掘り起こしと応用 ○田野井 慶太郎^{1,2}, 菅野里美², 中西 友子² ¹東京大・生セ, ²東京大・院・農・RI</p>	<p>2aB06(10:45) コメント: 保全の立場から多様性を考える 藤井 伸二 人間環境大</p>	<p>2aC05(11:05) 光ピンセット法による色素体・ミトコンドリア分裂装置の構造と分子機構の解明 ○吉田 大和, 黒岩 晴子, 黒岩 常祥 立教大・極限生命</p> <p>総合討論 (11:35)</p>	<p>2aD03(10:40) mRNA代謝における細胞骨格ネットワークの役割 濱田 隆宏 マサチューセッツ大 アマースト校</p> <p>2aD04(11:00) 植物ウイルスの細胞間移行 佐々木 信光 東京農工大・遺伝子実験施設</p> <p>2aD05(11:20) 小分子RNAの細胞内・細胞間移動 ○渡辺 雄一郎, 竹田 篤史, 熊倉 直祐, 富田 章裕 東大・院総合文化</p>	<p>2aE05(10:45) リボソームタンパク質による葉の発生制御 ○堀口 吾朗¹, 塚谷 裕一^{2,3} ¹立教大・理・生命, ²東大・院・理, ³基生研</p> <p>2aE06(11:10) ASYMMETRIC LEAVES2 (AS2) と rRNA のプロセシングに関わる因子の変異は葉の向背軸性の確立に影響する ○松村 葉子¹, 林 里香¹, 大林 祝², 小島 晶子³, 杉山宗隆², Julio Sáez-Vásquez⁴, Manuel Echeverria⁴, 町田千代子³, 町田 泰則¹ ¹名古屋大院・理・生命理学, ²東京大院・理・植物園, ³中部大・応用生物, ⁴フランス・ベルビニャン大</p> <p>総合討論 (11:35)</p>

シンポジウム 第2日 9月10日(金) 午前

F 会場	G 会場	H 会場	I 会場	J 会場
<p>2aF05(10:45) DNA二本鎖切断による核内倍加の誘導機構 梅田 正明 奈良先端大・バイオ</p>	<p>2aG05(10:45) 苔類のストレス応答と休眠におけるアブシジン酸の役割 竹澤 大輔 埼玉大・院・理工</p>			<p>2aJ05(10:45) マメ科植物をもちいた菌根共生システム研究の利点 ～根粒・菌根共通経路からみえる菌根共生分子機構～ 武田 直也 基生研・共生システム</p>
<p>2aF06(11:10) 核相依的な細胞成長を制御する転写因子GTL1の解析 Christian Breuer, 河村 彩子, 〇杉本 慶子 理研・植物科学研究センター</p>	<p>2aG06(11:10) 表皮分化に関わるCLE遺伝子 〇澤 進一郎, 木下 温子, 田畑 亮 東京大・院・理・生科</p>	<p>2aH06(11:00) 適応進化を担うフィトクロム: 日本産高山植物のPHYE遺伝子における自然選択 池田 啓 東京大・院・理</p>	<p>2aI05(11:00) 葉内におけるCO₂コンダクタンスの制御機構 半場 祐子 京都工繊大</p>	<p>2aJ06(11:10) 寄生植物ストライガの生存戦略と共生シグナル～新しい植物ホルモン・ストリゴラクトンの寄生と共生における役割～ 〇吉田 聡子¹, Juliane K. Ishida^{1,2}, 白須 賢¹ ¹理研・PSC, ²東大・院・農</p>
<p>総合討論(11:35)</p>	<p>2aG07(11:35) 陸上植物に固有の転写因子LFY 〇荒木 崇¹, 酒井 友希¹, 辻井 由香¹, 宇山 和樹¹, 宮下 結衣¹, 川本 麻美¹, 遠藤 求¹, 石崎 公庸¹, 大和 勝幸², 河内 孝之¹ ¹京都大・院・生命科学・統合生命科学, ²近畿大・生物理工学</p>	<p>2aH07(11:25) シロイヌナズナ属における自家和合性進化の遺伝的背景を探る 〇土松 隆志, 清水 健太郎 チューリヒ大</p>	<p>2aI06(11:20) 細胞膜アクアポリンの水分生理と光合成への寄与 〇土平 綯子¹, 半場 祐子², 河津 哲³, 前島 正義¹ ¹名古屋大・院・生命農学, ²京都工繊大, ³王子製紙・森林資源研</p>	<p>2aJ07(11:35) 共生における植物のセキュリティシステム～Nod Factorで駆動される防御応答とその制御～ 中川 知己 生物研</p>
		<p>総合討論(11:50)</p>	<p>総合討論(11:50)</p>	